



## 多様な主体による地域課題の解決

日本一の共助県づくりを進めている埼玉県。多くのNPOと企業、自治会など多様な主体が“共助”して地域課題の解決を目指しています。シリーズ1回目の今回は積極的に取り組んでいる団体を紹介しします。  
(編集部)

### ◆一般社団法人 日本聴導犬推進協会

聴覚障がい者福祉の増進に寄与することを目的として活動していたNPO法人聴導犬普及協会が2015年6月に「一般社団法人日本聴導犬推進協会」として生まれ変わりました。埼玉県共助社会づくり課とは数年前からイベント等で関わりがあります。今回は、協会や聴導犬、企業との関わり等について事業統括部秋葉圭太郎さんにお話を伺いました。

### 聴導犬は人が大好き



事業統括部の秋葉さんと聴導犬PR犬シャチ君

聴導犬の訓練を受ける犬の多くは、誰に対しても友好的です。様々な訓練を経て、ユーザーとの相性を訓練士が判断し、合同訓練を経て、認定試験に臨みます。聴導犬は音を知らせるだけでなく、ユーザーの耳となって働く補助犬です。

聴導犬に限らず、補助犬はどんな場所でもどんな人とでも接することができなければなりません。協会の施設で日常生活に関わる一通りの基本的な訓練を終えてから外での訓練を行います。外に出た時、つまり、社会に出た時にきちんとできるように訓練を重ねていきます。その後、聴導犬になれるかどうかを最終的に判断します。聴導犬になれなかった犬

は、ペットとして引き渡しています。犬も楽しいことは進んで取り組むので、ダメなことを教えるのではなく、『良いことを楽しんでやってもらえる』ように教えていきます。

聴導犬の訓練士は犬の命を守ることはもちろん、ユーザーの命も預かることとなります。当協会でも訓練士も養成していますが、研修を受けるに当たっては特に学歴や専門的知識は必要ありません。訓練士になる要素として、犬が好きであることは大切ですが、それ以上に覚悟と決意が必要です。残念ながら、訓練士の仕事だけでは生活が成り立たないので、中途半端な気持ちでは務まりません。希望者には約1年間の研修を受けていただき、最終的に訓練士になるかを相談して決めています。

### 企業との協働

2013年ごろから企業との関係作りにも力を入れるようになりました。2015年1月に実施された「彩の国 ビジネスアリーナ」では白岡市の株式会社VOXPOP様と協働してチャリティグッズを商品化することとなりました。イベント終了後、2月上旬から準備を始め、第1弾として4月に聴導犬をモチーフにしたタオルを販売しました。デザインから商品化まではスムーズに進みました。第2弾の企画として紫、水色、黄緑、ピンク、オレンジの“5色のボトル”を販売しました。

引き続き、9月以降のチャリティグッズの企画に向けて準備をしている最中です。どのチャリティグッズも売り上げの一部が寄附として、聴導犬の育成に



オレンジのボトル

「共助」とは…文字通り、共に助け合うということです。よく、「自助」「共助」「公助」といわれます。

「自助」…困ったことが起きた時、一人ひとりが最大限努力し、解決に努めること。

「共助」…自助で解決ができない場合に地域の人々など周囲が支えること。つまり、地域や仲間、みんなで助け合うこと。

「公助」…共助でも問題が解決できない場合に、公的な仕組みが支えること。

※埼玉県の一の共助県づくりの取り組みについては本誌2015年7月号（P.38～41）をご参照下さい。

充てられます。

また、子供から大人まで日常生活の何気ない行動が、社会貢献につながる取組として、サントリービバレッジサービス株式会社様の協力で『聴導犬支援自動販売機』を都内に設置しています。



飲料代金は通常価格ですが、売上金額の一部が寄附される仕組みになっています。

現在、コカ・コーラ イーストジャパン株式会社とも協力して埼玉県内の設置に向けて準備しているところです。

## 将来の担い手を養成

私たちの活動に興味を示してくださった、生活協同組合パルシステム埼玉様の助成を受けて、昨年度、県内の希望した800校以上の小学校の中から、抽選で10校に無料でデモンストレーションを行いました。今年度の応募は9月末まで、実施は11～2月の予定です。聴覚障がい者へのサポートの必要性を学ぶ機会を、幼いころから継続的に設定すると効果的だと考えています。小学生に実際に聴導犬の役割を見てもらうことで、関心を持ってもらい、将来につながればと考えています。

## NPO法人の発展のために

社会貢献をしたいと思っている企業はたくさんあります。そのような企業の目に留まり、協働して活動を続けていくと、そこから

新たなつながりができ、大きな波に乗ることができます。私たちは、広い視野で社会をとらえ、それぞれの法人の素晴らしい活動を知ってもらうことが重要です。Facebookを使っただけの広報活動は効果的なので、是非、取り入れていただきたいです。社会が何を求めているのかをNPO法人自身をもっと知り、広報活動にエンターテインメント性を加え、興味を持ってもらうための努力を惜しまないことです。時代の流れにそって、新しいものをどのように取り入れ、どのように使えばよいか、イベントでの見せ方を学び、教えてもらうといいと思います。興味を持ってもらう話し方や表現方法、技術等を身に着けたことが、今も非常に役立っています。粘り強く広報活動を繰り返して行うことでNPO法人のイメージを打ち破り、変えていくことが発展へつながるはずですよ。



協会のロゴマーク

協会について詳しくはこちら  
<http://www.hearingdogjp.org/>

(2015年6月取材)

私たちは、地域の「困っている」人に気づき、小さなことから取り組み、共に助け合っていく社会（共助社会）を作っていく主体となります。一人ひとりが柔軟な発想と心を育てていくことが必要です。私たちが一体となり、聴覚障がい者を含めたすべての人々が、生き生きと楽しく、共に生活していける社会を実現させましょう。

(企画・資料提供：埼玉県県民生活部共助社会づくり課)